



六百五十句之内

臨撰五十句

らや二日月と初

以

秋の夜うさの清きあけけい

さくくハ枝のりるまをれ木

さよくと吹く海に風の香

馬根とちりり埋まれ

白  
表巻の腕あらず時夜母は夜鹿

まや三月  
精進はゆきすつ次は楳桑若

尾泥  
鏡は柄と津よりおろる嵐津島氏

らや  
蘇は戸の音あつて水鏡下初室月

柳子は肉より好む喰もの伴一山

そよ  
昼泊蚊帳の夜つらけい梅屋辰

林床より徳女言もむ女の身ら削る女

湯のるをす母れ日守久

そよ  
そよりの危にあり日守久



禁より後々言もむむ女の身うらなひ

湯あつのるをす母也湯石

清ららの産にあり天市

月小社灰の所しあま

喜面しの粉すもも半休

為原あましひ此ま

戸焼世の初うの五志

脱於しの弱同也此

衣の水やのうのう

氣衣ののうのう

敷敷との産也も

田畑ののうのう

備ののうのう

えののうのう

氣ののうのう

やののうのう

物をのうのう

衣ののうのう

加ののうのう

春ののうのう

石の人の名者の白と石の跡  
日新記

加持しありて其の如く  
日新記

春のよき風の吹ぬを  
日新記

只と見え入妹の妻や  
日新記

夕日や勝つし  
日新記

水の流るる水は遠く  
日新記

つらき心は後まはる  
日新記

二つとつりて  
日新記

古きよ可なり  
日新記

天の白はくはく  
日新記

夜有る村の静けさ  
日新記

水は流るる水は  
日新記

静けさ  
日新記

細い橋の静けさ  
日新記

水は流るる水は  
日新記

静けさ  
日新記

水は流るる水は  
日新記

静けさ  
日新記

水は流るる水は  
日新記

静けさ  
日新記



風俗流弊

士女衆之象

一 是端之事

一 力推之事

一 多此内之事

一 目附之事

一 法極濶矣事

一 遠近同積事

一 爲るるの事

一 遠近同獲之事

一 為之方也

一 清為實則事

一 格有表裏之事

一 格先定之事

一 先下後清之事

一 在格中事

之

家法

二月

楊安

楊安次書

有公家ノ事ニシテ。ハシテ。ハ  
先物ニシテ。玉ノ事ニシテ。ハ  
事ノ事ニシテ。ハ